

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループはこのたび2021年4月1日から2021年9月30日までの第2四半期決算を行いましたので、その概況についてご報告申し上げます。

2021年12月

取締役社長 **鷲根 成行**

## 第122期中間決算について

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、国内で新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、社会経済活動の制限が徐々に解除に向かう一方で、自動車生産におけるサプライチェーンの世界的な混乱により需要の回復に供給が応えられない等、引き続き先行き不透明な状態が続いています。

このような情勢のなかで当社グループは、徹底したコストの削減とグループを挙げた品質管理体制の強化に取り組むとともに、成長が見込まれる分野・地域への拡販を推進し、収益の確保に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は24,182百万円となりました。前年同期は自動車安全部品事業において主要顧客の生産調整に伴う販売低迷等、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたこともあり、前年同期比3,180百万円の増収となりました。しかしながら、当第2四半期においては国内外での自動車生産の大幅減少の影響が顕著であり、半導体不足の解消や東南アジアにおける自動車部品の生産の正常化について、未だに見通せない状況となっています。

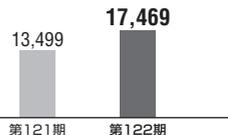
損益面におきましては、機能製品事業が低調に推移したほか、物流費の大幅な増加もあり、営業損失は1,019百万円と前年同期比242百万円悪化しました。なお、前年同期においては海外連結子会社の外貨建債務等の評価による為替差損488百万円が発生しましたが、当第2四半期連結累計期間では為替差益299百万円を計上した結果、経常損失は652百万円となり、前年同期比597百万円改善しました。親会社株主に帰属する四半期純損失は646百万円で、前年同期比1,085百万円改善しました。

## 自動車安全部品事業

売上高

**17,469**百万円

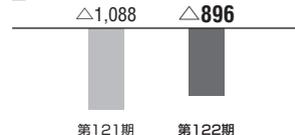
■ 第2四半期(累計) (百万円)



営業利益

**△896**百万円

■ 第2四半期(累計) (百万円)



前年同期に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたこともあり、当第2四半期連結累計期間においては、シートベルト関連、エアバッグ関連、内装品関連とも、受注は大きく回復しました。

この結果、当事業の売上高は17,469百万円と前年同期比3,969百万円の増収となりましたが、当第2四半期においては失速が顕著になっています。

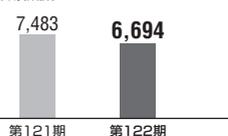
損益面におきましても、営業損失は896百万円となり、売上高の回復に伴い前年同期比191百万円の改善となりました。しかしながら、第1四半期で受注が大幅に回復した後、第2四半期においては急激な減産を余儀なくされる等、生産が大きく変動し、納期対応のためにコストが増加、加えて全世界的な景気回復に伴う原材料価格の上昇や物流費の高騰が利益の圧迫要因となり、改善幅は小幅となっています。

## 機能製品事業

売上高

**6,694**百万円

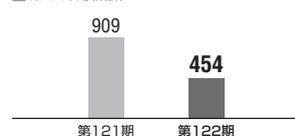
■ 第2四半期(累計) (百万円)



営業利益

**454**百万円

■ 第2四半期(累計) (百万円)



パルテム関連は、ライフライン（下水道・上水道・ガス等）の管路更生分野において、主力の下水道分野が低調に推移し、売上・利益ともに減少しました。前期からの繰越工事が少ないことに加え、当第2四半期連結累計期間における新規受注は堅調であったものの、天候不順等による工事の進捗の遅れが減収の要因となっています。防災関連は、消防用・消火栓用ホース、災害対策用排水ホースなどがともに低調で、減収となりました。

産業資材関連は、船舶用ロープの受注が減少したものの、物流省力化分野やタイミンベルト用高機能資材織物の受注が回復し、堅調に推移しました。

この結果、当事業の売上高は6,694百万円と前年同期比788百万円の減収となり、営業利益につきましても454百万円と前年同期比455百万円の減益となりました。

## 今後の取り組みについて

今後の経済は、世界経済の低迷、雇用情勢の悪化、金融市場の変動など、極めて厳しい状況が続くと予想されます。このような激変を続ける状況下、当社グループでは、基本方針として、収益性を重視、事業の基盤固めを行うこととし、徹底したコストダウンの実施・責任の明確化と収益の見える化・生産性・コストを意識した部門間連携の強化を進めております。

## 各事業の取り組み

自動車安全部品事業においては、引き続き徹底した原価低減・生産性向上活動に努め、黒字化を目指すと同時に、グループを挙げた品質管理体制の強化に取り組んでまいります。また、本年5月に締結した豊田合成株式会社との資本業務提携契約を通じて、相互の事業資産とノウハウを活用し、製品競争力、開発力を強化させることにより当事

業の拡大と収益性の改善に取り組んでまいります。

機能製品事業においては、パルテム関連において増加する下水道分野の管路更生需要を積極的に取り込み、防災関連の大口径システムや防災資機材の拡販活動により、事業の拡大と収益の向上に取り組んでまいります。

## 第122期通期の見通し

第122期の業績見通しにつきましては、売上高54,000百万円、営業利益580百万円、経常利益530百万円、親会社株主に帰属する当期純利益220百万円としております。

なお、当期の中間配当につきましては、当初の予定どおり見送りとさせていただきます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

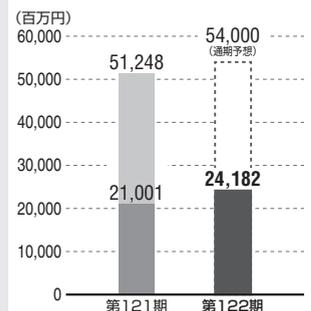
以上

## 中間決算ハイライト

売上高

24,182 百万円

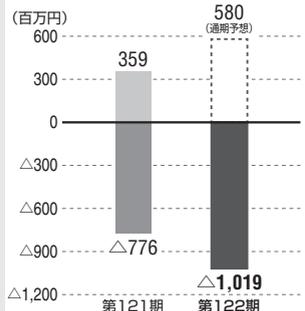
前年同期比 15.1% 増 ↑



営業利益

△1,019 百万円

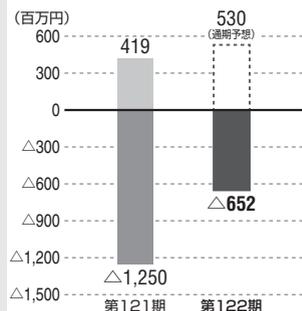
前年同期は  
営業損失776百万円



経常利益

△652 百万円

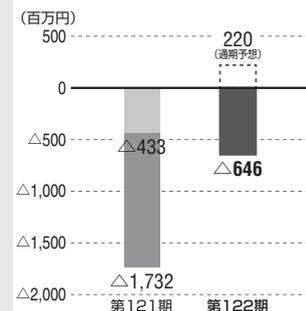
前年同期は  
経常損失1,250百万円



親会社株主に帰属する  
四半期(当期)純利益

△646 百万円

前年同期は親会社株主に帰属する  
四半期純損失1,732百万円



■第2四半期(累計) □通期

## 会社の概要 (2021年9月30日現在)

社名	芦森工業株式会社
設立	1935年12月27日
資本金	8,388,681,265円

## 株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行可能株式総数	22,000,000株
発行済株式の総数	6,056,939株
株主数	5,400名

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間とします。
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
配当金受領株主	期末配当金の基準日 3月31日
確定日	中間配当金の基準日 9月30日
基準日	定時株主総会の議決権の基準日は、毎年3月31日とします。 その他必要のある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告し、基準日を定めます。
公告方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 ※公告掲載の当社インターネットホームページアドレス <a href="https://www.ashimori.co.jp/">https://www.ashimori.co.jp/</a>

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 (〒541-8502) 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 (通話料無料) 0120-094-777

株式上場市場 東京証券取引所 第1部

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、単元未満株の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

# ASHIMORI

本 社：大阪府摂津市千里丘7丁目11番61号  
<https://www.ashimori.co.jp/>